

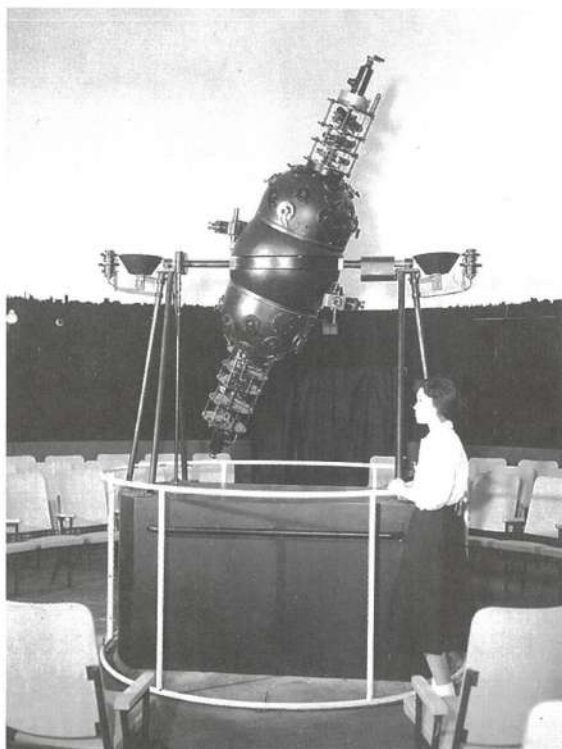
ある むぜお

府中市郷土の森博物館だより

al museo

2026 年 6 月 20 日

No.156



国産初のレンズ投映式プラネタリウム M-1 型 © 五藤光学研究所

もくじ

- 1-2 フチュウで はたらく ウチュウ人
その 1…星空ツクール星人
- 3 最近の発掘調査
真っ黒な土が語る昔の府中
- 4-5 NOTE
書き残された家の盆行事
- 6 展示会案内
特別展 フチュウで はたらく ウチュウ人
- 7 展示会案内
企画展 発掘された戦争の記憶
- 8 series 収蔵庫のニューフェース
珠文縁八葉蓮華文軒丸瓦
- 9 令和 7 年度利用状況 寄贈・寄託資料一覧
新刊案内
- 10 お札からみる府中
①旧家に残された大量のお札

フチュウで はたらく ウチュウ人

府中市内には、宇宙に関わる仕事や活動をしている「ウチュウ人^{じん}」がたくさんいます。そのうち「星空ツクール星人^{せいじん}」、「人工衛星ツクール星人」、「人工衛星ササエール星人」、「宇宙マモール星人」にまつわるエピソードを 4 回シリーズで紹介します。

その 1…星空ツクール星人

1959 年（昭和 34）、星空ツクール星人は日本で初めてレンズ投映式プラネタリウム M-1 型の製造に成功しました。性能が良く、海外製よりも安価だったため、翌年にはアメリカの博物館にも納入されました。これまで累計 1,000 台以上のプラネタリウム投映機が製造・納入され、世界中で活躍しています。そんな星空ツクール星人が最初につくっていたのは、望遠鏡でした。

オッダ お札からみる府中

①旧家に残された大量のお札

このシリーズでは、市内の旧家^{きゅうか}で見つかった古いお札^{ふだ}を通して、府中における江戸時代から現在までの信仰と、その変遷^{へんせん}を紹介していきたいと思います。

2020年（令和2）、市内の旧家・内藤清兵衛家^{せいべい}（美好町）の屋根裏から、ぎっしりお札が詰めこまれた^{たわら}俵^{たわら}が三つも発見されました。その俵の上にも大量のお札がむきだしで積まれていました。全て数えると、7,000枚以上ありました。現在確認されているお札群のなかでは日本一多い数です。発行場所は350箇所以上。その中には、廃寺になったり戦災で失われたりした寺社のお札も含まれていました。

お札には発行年月が書かれていることがまれで、発行時期の特定が困難です。しかし、状況証拠から、これらのお札群はおおよそ江戸時代後期から昭和初期頃までの間に集められたものと推測されました。例えば「六所宮」と記されたお札は、明治初期に改称した、現・大國魂神社^{おおくにたま}のものであり、「弥勒寺^{みろくじ}」のお札は、廃寺となった現本宿町^{ほんしゆくちよう}にあった寺院が江戸時代に発行したものと考えられます。また、伊勢神宮^{いせじんぐう}（三重県）や秋葉権現^{あきはごんげん}（静岡県）、榛名神社^{はるな}（群馬県）など、遠隔地のお札もありました。

寺社から発行されるお札は、年末年始や縁日などの定期的な機会に新しく取りかえるのが一般的です。すると古いお札はお焚きあげしたり、発行元に返却したりして、大半は失われていきます。しかし、古いお札を処分せず意図的に保存する例があり、その方法は2つのタイプに分けられるようです。ひとつは内藤家のように俵につめる等、自宅屋根裏に収納するタイプ。もうひとつは壁や額^{がく}など所定の場所に次々と古いお札を重ね貼りしていくタイプです。いずれも複数の事例が確認されており、100から1,000枚単位のお札が残されるようです。



内藤清兵衛家（美好町）屋根裏で発見された大量のお札群は、俵三つの中につめこまれていただけでなく、俵の上部にむきだしのまま積み上げられていた。

なぜお札を処分しなかったのか？ 一度役割を終えた古いお札を集めておくと、家の魔除けや火事除けにつながると考えられていたからのようです。この例は、家内安全、諸願成就^{しよがんじゆうじゆ}などといった各寺社がかかげる具体的な御利益とは別に、お札のかたまり自体が魔除けだという、おまじないのような意味づけがされていたといえるでしょう。何が契機^{けいき}となってこのようなお札保存の風習が発生したのかは分かっていませんが、日本各地でこうした例が報告されているため、広く知られたおまじないだったと思われる。

こうして残されたお札群を具体的に分析すると、府中近辺の寺社の変遷をたどることができそうです。さらに全国の屋根裏で発見された似たようなお札群の例と比較することで相違点が浮きぼりになれば、府中における信仰の変遷を、より一層深く理解できるでしょう。ただ単に数が膨大であるだけでなく、さまざまな情報が読み取れる、興味深い資料のかたまりなのです。

（佐藤智敬）



市内片町の旧家にあった額には、大國魂神社や川崎大師など、様々なお札が重ね貼りされていた。